

メカジキ 南大西洋

(Swordfish, *Xiphias gladius*)



最近の動き

2017 年に大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT) の科学委員会 (SCRS) により本種の資源評価が実施された。資源評価には Just Another Bayesian Biomass Assessment (JABBA) 及び Bayesian Surplus Production 2 (BSP2) が用いられ、JABBA の結果を元に資源状態は乱獲状態にあり、漁獲は過剰漁獲の状態ではないものの、MSY レベルに近いことが示された。また、SCRS は将来予測の結果から、総漁獲量 (TAC) を近年の 15,000 トンで維持した場合、2028 年に資源が MSY レベルに回復する可能性が 26% であり、50% 以上の可能性で資源を維持するためには、TAC を 14,000 トンとする必要があることを指摘した。本結果を受けて、ICCAT は 2018 ~ 2021 年の TAC を 14,000 トンと設定した。なお、日本の漁獲割り当ては 901 トンである。

漁業の概要

南大西洋のメカジキは、1980 年代末まで主に日本、台湾、韓国のはえ縄の混獲物として漁獲されており、総漁獲重量は 10,000 トン未満と少なかった (図 1、図 2)。1989 年からメカジキを目的にはえ縄の浅縄操業を行うスペインの船団が参入し、1995 年の総漁獲量は 21,930 トンへと急増した。これは、スペインの漁場が徐々に北大西洋及び他の大洋から南大西洋へとシフトしたことによるが、加えて、ブラジ

ル、ウルグアイ等の沿岸国が漁獲を伸ばしたことにも影響している。近年これらの国々のメカジキ漁獲量は減少傾向にある。大西洋における 2010 ~ 2015 年のメカジキ累積漁獲量の分布図を図 3 に示す。2016 年の漁獲量は 1995 年より約 65% 減の 7,725 トンであり、前年の漁獲量 (10,319 トン) より減少した (表 1)。これは主にスペインの漁獲量が増加したためである。しかし、ブラジルとウルグアイの努力量は近年減少している。また、ウルグアイは近年ビンナガの漁獲枠が増加したため、近い将来混獲によりメカジキに対する努力量が増加する可能性が高い。

大西洋で行われる我が国の漁業において、メカジキは主に熱帯・亜熱帯域で操業するメバチを対象としたはえ縄操業の

表 1. 南大西洋におけるメカジキの近年の国別漁獲量
(Anon. (ICCAT) 2017)

国名/年	2012	2013	2014	2015	2016
ブラジル	2,833	1,427	2,892	2,588	0
中国	316	196	206	328	222
台湾	496	582	451	554	480
スペイン	4,852	4,184	4,113	5,059	4,992
ポルトガル	184	125	252	236	250
日本	1,162	684	976	659	639
ナミビア	85	129	395	225	466
南アフリカ	50	171	152	218	164
ウルグアイ	40	103	0	0	0
その他	669	611	520	453	512
合計	10,686	8,212	9,957	10,319	7,725

*2016 年の漁獲量は暫定値

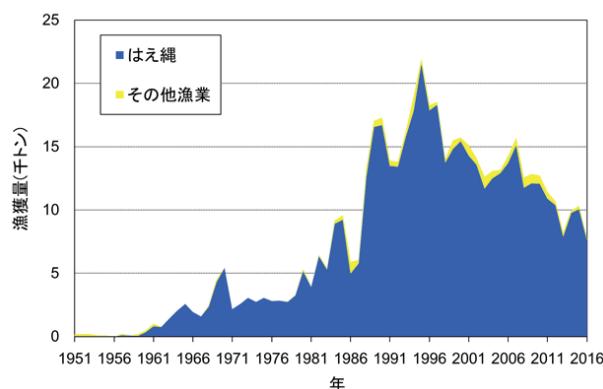


図 1. 南大西洋におけるメカジキの漁法別漁獲量
(1951 ~ 2016 年) (Anon. (ICCAT) 2017)

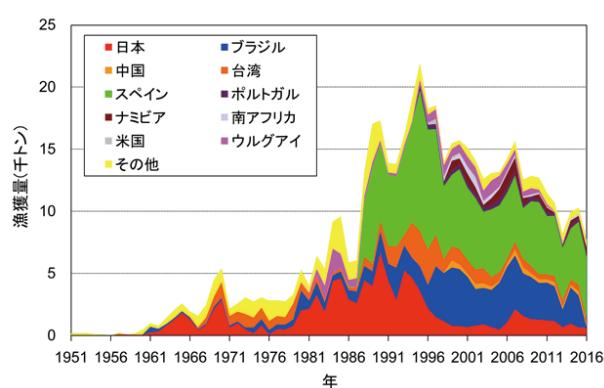


図 2. 南大西洋におけるメカジキの国別漁獲量
(1951 ~ 2016 年) (Anon. (ICCAT) 2017)

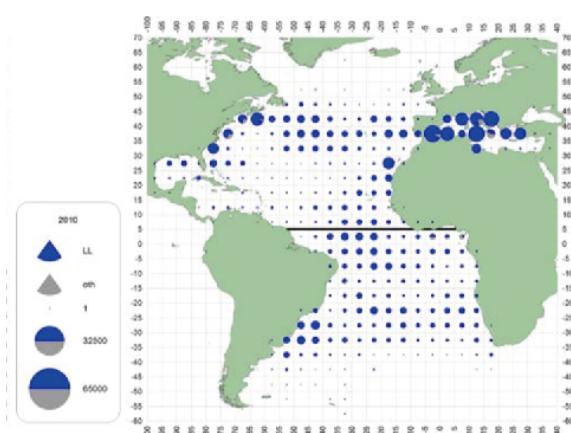


図 3. 大西洋における漁法ごとのメカジキの累積漁獲量（2010～2015 年の合計）の分布図（Anon. (ICCAT) 2017）
青がはえ繩漁法、灰色がその他の漁法による漁獲量を示す。円の大きさは漁獲量の相対的な比を表す。凡例の丸は上から 32,500 トン、65,000 トン。南北の系群は北緯 5 度（太線）で仕切られている。

混獲物である。1995 年以降メバチの漁場がそれまでの南大西洋から徐々に北大西洋に移行したため、南大西洋の我が国のメカジキ漁獲量は減少傾向にある。

生物学的特性

メカジキの資源構造については、1990 年代中期から 2000 年代中期にかけて分子遺伝学的手法による研究が精力的に行われ、2006 年には ICCAT でメカジキの資源構造に関するワークショップが開催された（Anon. (ICCAT) 2006、ICCAT 2006）。これまでの研究結果は、ミトコンドリア DNA・核 DNA の塩基配列の違いに基づき、地中海、北大西洋、南大西洋、太平洋の 4 つの独立した系群の存在を示唆している。大西洋におけるメカジキの南北の境界線については、便宜的に北緯 5 度線が境界として定められているが（Miyake and Rey 1989）、この境界よりも北であるとの指摘がある（Chow and Takeyama 2000）。また、Chow and Nohara（2002）は、本系群はアフリカ沿岸では北緯 15 度付近まで分布する可能性を示唆している。2006 年のワークショップでは、同様な指摘が複数報告されたが、どの研究もカバーする水域や時期が限られており、境界を変える判断を下すに不十分であるとされた。その後、北緯 10～20 度において広く標本が収集・分析され、境界線が北緯 15 度付近にあることが示された（Chow *et al.* 2007）。最新の遺伝解析による知見（Smith *et al.* 2015）では、南北大西洋の境界線が北緯 20～25 度、西経 45 度付近にあり、地中海と大西洋の境界線が西経 10 度にあることが示されたが、資源の境界線については、資源分布の季節的な変化の影響を十分に調べる必要があるため、現在の境界線を維持することとなった（Anon. (ICCAT) 2015）。

メカジキの産卵場は熱帯及び亜熱帯域にあり、成長したメカジキはアフリカ沿岸方面やウルグアイ沖合水域に摂餌のために回遊すると考えられている（Anon. (ICCAT) 2014）。南大西洋のメカジキの年齢、成長、成熟に関して本格的な研究

はまだ行われていない。

資源状態

最新の資源評価は 2017 年に ICCAT の SCRS によって 1950～2015 年までのデータを用いて実施された。資源評価には Just Another Bayesian Biomass Assessment (JABBA) 及び Bayesian Surplus Production 2 (BSP2) が用いられ、資源量指数と将来予測の計算には JABBA が、感度解析には BSP2 が使用された。両モデルともに資源量指数として、日本、台湾、スペイン、ブラジル、ウルグアイ、南アフリカのはえ繩の資源量指数を使用した（図 4）。なお、前回の資源評価では、各国の CPUE トレンドが大きく異なるうえに変動も大きいため、ブラジルを除いた一本の CPUE とブラジルと台湾の両方を除いた一本の CPUE が使用されたため、今回の資源評価結果は単純に前回の資源評価結果と比較することはできない。

2 種類のモデルによる本種の資源評価結果の結果は概ね一致していた。BSP2 の結果から、現在の資源量 (B_{2015}) は B_{MSY} よりも低く、現在の漁獲圧 (F_{2015}) は F_{MSY} よりも高いと推定された（図 5）。JABBA モデルは、 F_{2015} が F_{MSY} に非常に近く、 B_{2015} は B_{MSY} 未満であると推定した（図 6）。JABBA の結果から本種の資源状態は乱獲状態にあり、漁獲は過剰漁獲の状態ではないものの、MSY レベルに近いことが示された。また、SCRS は、JABBA を用いて 2028 年までの将来予測を行った。漁獲量を既存の TAC (15,000 トン) とした場合では、10 年後に MSY レベルに回復する可能性は 26% であり、50% の確率で資源量と漁業を MSY レベルにするためには漁獲を 14,000 トンに減少させる必要があることが示唆された（表 2）。

漁獲量規制の導入に伴って、混獲されるメカジキの水揚量を調節するために、生きて漁獲されたメカジキを放流する動きが出てきたが、一部の国では放流個体数等についての情報収集が十分にされていないこと、過少報告の可能性があることが指摘されている（Anon. (ICCAT) 2013）。データの質・量の低下は資源評価の信頼性を落とすことに繋がるので、今後改善が必要である。

管理方策

ICCAT は 2014～2017 年の間、各年 15,000 トンの TAC

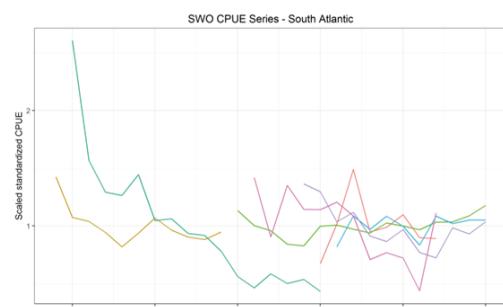


図 4. 国別の標準化された CPUE (Anon. (ICCAT) 2017)
平均値でスケール化されているため単位はない。

を設定していたが、2017 年の年次会合において、2018～2021 年までの TAC を 14,000 トンとした。日本の割当量は 901 トンである。国別割り当て分を超過もしくは余った場合には、2 年以内であれば差し引き・上乗せを行い調整することができる。ただし、調整分は前年の割り当て量の 20% を超えない範囲とする (Anon. (ICCAT) 2013)。

現在、大西洋全域について、①下顎叉長 125 cm / 体重 25 kg 未満の個体の水揚量を 15% 以下に抑える、または②

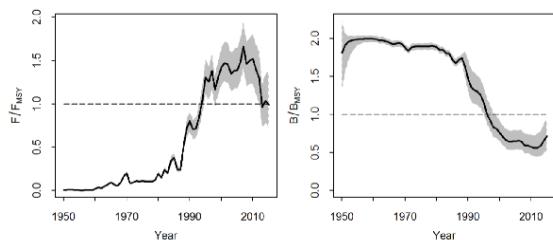


図 5. JABBA で推定された相対資源量 (B/B_{MSY} : 右図) 及び相対漁獲係数 (F/F_{MSY} : 左図) (Anon. (ICCAT) 2017)
点線は 95% 信頼区間。

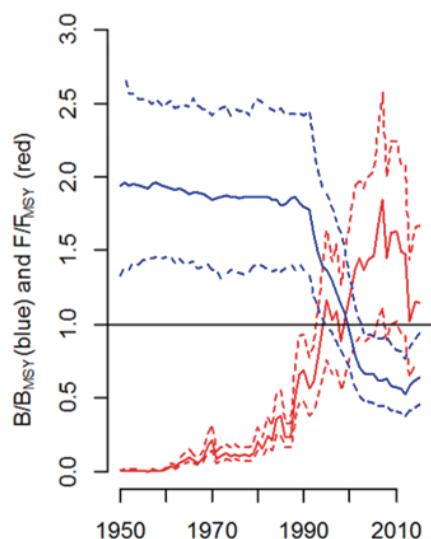


図 6. BSP2 で推定された相対資源量 (B/B_{MSY} : 青線) 及び相対漁獲係数 (F/F_{MSY} : 赤線) (Anon. (ICCAT) 2017)
実線は推定値、破線は 90% 信頼区間。

表 2. 将来予測による一定の漁獲量 (Y 軸 : TAC) に対してある年までに $B > B_{MSY}$, $F < F_{MSY}$ となる確率 (Anon. (ICCAT) 2017)
灰色の部分はそれぞれ $B > B_{MSY}$, $F < F_{MSY}$ となる確率が 50% 以上を示す。

TAC	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
10000	35	51	65	75	81	85	88	90	92	93	95
10500	35	51	63	72	78	82	86	88	90	91	92
11000	35	49	59	67	74	79	82	85	87	88	90
11500	36	47	57	64	70	75	78	81	83	85	86
12000	36	46	54	60	66	70	74	77	79	81	83
12500	36	44	51	56	60	65	68	71	73	75	76
13000	36	42	47	52	56	59	62	65	66	68	70
13200	36	41	45	50	53	57	59	61	63	65	65
13400	35	40	45	49	51	54	56	58	59	61	62
13600	35	39	43	46	49	51	52	55	56	57	58
13700	35	39	42	45	47	50	52	53	54	56	57
13800	35	38	41	44	46	48	50	51	53	53	54
13900	34	37	40	43	45	46	48	49	50	52	52
14000	35	37	40	42	44	46	47	48	48	49	50
14500	33	34	35	36	36	37	38	38	38	38	39
15000	30	30	30	29	29	28	28	28	27	27	26
15500	26	25	23	22	20	19	18	17	16	16	15
16000	22	19	17	15	13	12	11	9	8	8	7

*2017 年の漁獲量は暫定値

下顎叉長 119 cm / 体重 15 kg 未満の個体の水揚量を 0% にする (投棄量の評価含む)、という 2 種類の最小体長規制がある (Anon. (ICCAT) 2015)。2006～2008 年の大西洋全体で水揚げされた 125 cm 以下の個体の割合は 24% (尾数) と推定されている (北系群では 28%、南系群では 20%) (Anon. (ICCAT) 2013)。

執筆者

かつお・まぐろユニット

かじき・さめサブユニット

国際水産資源研究所 かつお・まぐろ資源部

まぐろ漁業資源グループ

井嶋 浩貴

参考文献

- Anon. (ICCAT) 2006. 8 Executive summaries on species. 8.8 SWO-ATL-Atlantic swordfish. /n ICCAT (ed.), Report of the standing committee on research and statistics (SCRS) (Madrid, Spain, October 2 to 6, 2006). PLE-014/2006. 83-91 pp.
<http://www.iccat.int/Documents/Meetings/Docs/PLE-014%20EN.pdf> (2008 年 10 月 31 日)
- Anon. (ICCAT) 2013. 8 Executive summaries on species.8.9 SWO-ATL-Atlantic swordfish. /n ICCAT (ed.), Report of the standing committee on research and statistics (SCRS) (Madrid, Spain, September 30 to October 4, 2013). 161-180 pp.
- Anon. (ICCAT) 2014. 8 Executive summaries on species.8.9 SWO-ATL-Atlantic swordfish. /n ICCAT (ed.), Report of the standing committee on research and statistics (SCRS) (Madrid, Spain, September 29 to October 3, 2014). 145-164 pp.
- Anon. (ICCAT) 2015. 8 Executive summaries on species.8.9 SWO-ATL-Atlantic swordfish. /n ICCAT (ed.), Report of the standing committee on research and statistics (SCRS) (Madrid, Spain, September 28 to October 2, 2015). 158-176 pp.
- Anon. (ICCAT) 2017. 8 Executive summaries on species.8.9 SWO-ATL-Atlantic swordfish. /n ICCAT (ed.), Report of the standing committee on research and statistics (SCRS) (Madrid, Spain, October 2 to 6, 2017). 156-178 pp.
- Chow, S., Clarke, S., Nakadate, M., and Okazaki, M. 2007. Boundary between the north and south Atlantic populations of the swordfish (*Xiphias gladius*) inferred by a single nucleotide polymorphism at calmodulin gene intron. *Mari. Biol.*, 152: 87-93.
- Chow, S., and Nohara, K. 2002. Further implication on boundary between north and south Atlantic stocks of the swordfish. SCRS/2002/141. ICCAT Col. Vol. Sci. Pap., 55: 1719-1722.
- Chow, S., and Takeyama, H. 2000. Nuclear and mitochondrial

- DNA analyses reveal four genetically separated breeding units of the swordfish (*Xiphias gladius*). *J. Fish Biol.*, 56: 1087-1098.
- ICCAT. 2006. Report of the 2006 Atlantic swordfish stock assessment session (Madrid, September 4 to 8, 2006). SCRS/2006/015. <http://www.iccat.int/Documents/Meetings/Docs/SCI-040%20EN.pdf> (2008 年 10 月 31 日)
- Miyake, P.M., and Rey, J.C. 1989. Status of Atlantic broadbill swordfish stocks. In Stroud, R.H. (ed.), *Planning the Future of Billfishes Part I* 115-136 pp. National Coalition for Marine Conservation Incorporation, Athens, Georgia, USA.
- Smith, B.L., Lu, C.-P., García-Cortés, B., Viñas, J., Yeh, S.-Y., and Alvarado Bremer, J.R. 2015. Multilocus Bayesian Estimates of Intra-Oceanic Genetic Differentiation, Connectivity, and Admixture in Atlantic Swordfish (*Xiphias gladius* L.). *PLoS ONE*, 10(6): e0127979. doi: 10.1371/journal.pone.0127979.

メカジキ（南大西洋）資源の現況（要約表）	
資 源 水 準	低 位
資 源 動 向	増 加
世 界 の 漁 獲 量 (最近 5 年間)	7,725 ~ 10,686 トン 最近（2016）年：7,725 トン 平均：9,380 トン（2012 ~ 2016 年）
日 本 の 漁 獲 量 (最近 5 年間)	639 ~ 1,162 ^{*1} トン 最近（2016）年：639 トン 平均：824 トン（2012 ~ 2016 年）
管 理 目 標	MSY：約 14,600 トン
資 源 評 価 の 方 法	Just Another Bayesian Biomass Assessment (JABBA) 及び Bayesian Surplus Production 2 (BSP2) による。
資 源 の 状 態	$B_{2015}/B_{MSY}=0.72$ (0.53 ~ 1.01) ^{*2} $F_{2015}/F_{MSY}=0.98$ (0.70 ~ 1.36) ^{*2}
管 理 措 置	<ul style="list-style-type: none"> 2018~2021 年 の TAC を各年 14,000 トン（日本の割り当ては 901 トン）とする。国別割り当てについて、割り当て分を超過もしくは余った場合には、2 年以内であれば差し引き・上乗せを行い調整することができる。ただし、調整分は前年の割り当て量の 20% を超えない範囲とする。 下顎叉長 125 cm / 体重 25 kg 未満の個体の水揚量を 15% 以下に抑えるか、下顎叉長 119 cm / 体重 15 kg 未満の個体の水揚量を 0% にする（投棄量の評価含む）。
管理機関・関係機関	ICCAT
最新の資源評価年	2017 年
次回の資源評価年	未定

^{*1} この値は日本の近年の漁獲割当量を上回っているが、これは、ICCAT の合意に基づいた過去の漁獲割り当ての未消化分の漁獲が含まれているためである。

^{*2} Just Another Bayesian Biomass Assessment (JABBA) の中央値と 95% 信頼区間。